

# 視覚障害と肢体不自由のある 重度・重複障害生徒の手指の動きを促す指導

特別支援教育班 石田 羊一郎 (特別支援学校教諭)

## 主題設定の理由

重い障害があり、理解の程度を推し量ることが難しい生徒の学習指導に課題を感じていました。そこで、観察可能な手指の動きに着目して自立活動の指導方法を工夫し、授業実践を行いました。

## 研究の見通し

- 1 「**広D式手指運動発達基準表**」をもとに、対象生徒の手指運動機能の実態把握を行う
- 2 実態把握の結果と「**概念発達の段階に応じた教材・教具の整理**」を用いて、手指運動機能の向上と生活技能の獲得につながる動作の学習を行う
- 3 対象生徒の自発的な動きを尊重する「**タクティル・ストラテジース**」に基づく支援を行い、学習した動作を主体的に活用する態度を養う

ステップ	時間	動作
step 1	0:0	・手を口へもっていく。 ・手と手を触れたり、打ち合わせたりする。
	0:4	・腕を胸や顔のほうへ舉上する。 ・肘を曲げたり伸ばしたりする。 ・おつむでんでんをする。 ・手を額上に置く。
step 2	0:6	・ハンデイスをする。 ・両手を舉上し、数秒間保持する。(2)

### 広D式手指運動発達基準表

標準的な成就年齢に従って、手指運動の発達がまとめられています。



### 発達の段階に応じた教材・教具の整理

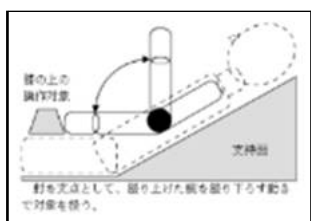
盲・知的障害児が学習で用いる教材を、認知発達の視点から整理した表です。



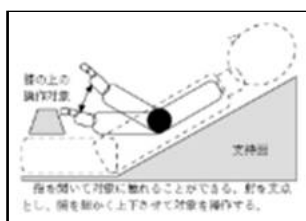
### タクティル・ストラテジース

重い障害のある子どもに支持的な支援を提供することを目的とした支援法です。

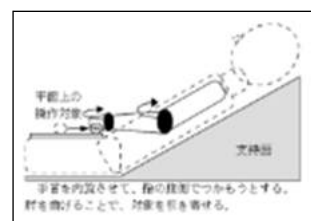
## 実践の様子



### 実践開始時の様子



### 実践中期の様子



### 実践後期の様子



### ローラー式スイッチの操作

実践開始時より細やかな動きでスイッチの操作ができるようになりました。  
手を大きく振り回して操作することによるけがの心配もなくなりました。



### スライド式スイッチの操作

肘や手首を使って対象物を手前に引いたり、指先で平面をなぞったりすることができるようになりました。  
日常生活では、高まった手指の動きを支援機器の操作などに生かしています。



### SEN Switcher の操作画面



### スイッチに接続した教材

**SEN Switcher** は、イギリスの教育NPO団体 Northern Gridが開発したコンピュータソフトです。希望する人は無償で利用することができ、重い障害のある子どもも楽しむことができます。

<http://www.northerngrid.org/>よりダウンロードすることができます。操作方法など、詳しい情報については報告書をご覧ください。

## 考察

- 1 「**広D式手指運動発達基準表**」を用いることで、対象生徒の手指機能を「つかむ」、「引く」、「さがす」などの生活動作と関連付けてとらえることができ、的確な実態把握を行うことができました。
- 2 「**概念発達の段階に応じた教材・教具の整理**」は、認知発達のプロセスという視点で整理されたという性質から、手指機能を高める中で、それをどのように生活技能の獲得に結び付けていくかを考える上で参考になりました。
- 3 「**タクティル・ストラテジース**」に基づく支援は、教師の手の動きを直接対象生徒の手に伝えることができるので、視覚の活用が困難な対象生徒に動きを伝える場面で、特に有効でした。